

新年



新年のごあいさつ

輝く未来へ羽ばたく鴻巣

鴻巣市長 原口 和久

明けましておめでとうございませす。市民の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお願い申し上げます。また、平素より、市政の推進にあたりまして、格別のご支援・ご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

昨年、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が長期間にわたり適用される中、市民の皆さんには、感染拡大防止に向けた様々な取組にご協力をいただき、改めて深く感謝申し上げます。

市では、迅速なワクチン接種に最優先で取組み、希望された方への接種は概ね終了しました。現在、3回目のワクチン接種に向け、市医師会と連携を図りながら準備を進めております。

また、高齢者の移動支援としてタクシー利用券等の配付、3回目となる水道料金の基本料金2か月分免除、18歳以下の子どもたちへのすこすこ読書応援図書カードの配付、このすくらぶプラス応援隊のクーポンの発行、このすくらぶ映画鑑賞、子ども食堂の運営支援、感染症対策を行う市内事業者等への給付金など、市独自の様々な支援策を展開し、市民生活の支援や地域経済の活性化に取り組んでまいりました。

願います。このほか、昨年を振り返りますと、3月に合併15周年記念式典を挙行し、市民の皆様とともに本市のさらなる飛躍に向けて思いを新たに、4月には、新たな市章を制定したほか、小・中学校における教育ICT環境の本格運用や新中学校給食センターの稼働を開始しました。7月には、東京2020オリンピック聖火リレーが本市を通り、パラリンピックでは、本市にゆかりのある選手2人が活躍するなど、私たちに勇気と感動を与えてくれました。

また、10月に、SDGsの理念のもと脱炭素社会の実現に向け「鴻巣市ゼロカーボンシティ宣言」を行うとともに、12月には、「鴻巣市パートナーシップ・ファミリーストップ宣誓制度」として拡充し、パートナーシップを宣誓する方と一緒に暮らしている未成年の子がいる場合、家族として生活を共にすることを併せて宣誓できるようにいたしました。

さらに、市役所敷地内に防災備蓄センターが完成し、防災力の強化を図ったほか、「花と緑の都市宣言」に基づく取組の一環として、「このすくらわーロード」として、鴻巣警察署から運転免許センターまでの歩道を花で装飾しました。

そして、本年は、いよいよ1月29日から、コウノトリ野生復帰センター「天空の里」において、昨年10月から飼育を開始したコウノトリ2羽の一般公開が始まります。皆様にもぜひ、市名の由来ともいわれるコウノトリを間近でご覧いただきたいと思っております。今後も、繁殖や放鳥を目指しながら、人にも生きものにもやさしいまちづくりを進めてまいります。

また、4月には、地域食材を活用した商品の開発や提供を通じて新たな賑わいを創出する「にぎわい交流館」がオープンするほか、市民生活に欠かすことのできない新ごみ処理施設整備推進事業、県との連携による産業団地の推進、国との一体型による道の駅整備など重点事業についても、着実に進捗してまいります。

昨年、民間サイトが発表した「全国戻りたい街ランキング2021」で本市が県内1位、全国18位、「全国注目度ランキング2021」(11月)で全国1位を獲得しました。これは、都心からのアクセスの良さや公共交通の利便性、生活環境や子育て環境の充実などが評価されたものと考えていますが、今後とも引き続き、このような本市の強みを生かした魅力あるまちづくりに全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして、健やかで幸せな年となることを心から祈念申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。

令和3年の主な出来事



花いっぱいのもちづくり「このすくらわーロード」の装飾(4月~)



教育ICT環境の本格運用(4月)



鴻巣市合併15周年記念式典を挙行(3月)



謹賀

明けましておめでとうございます。市民の皆様には、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また、昨年中は市議会の活動に対して、温かいご理解とご支援を賜り、市議会を代表して、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、延期されていた東京オリンピック・パラリンピックが開催され、オリンピックでは、日本選手団が金メダル27個、総メダル数58個を獲得し、どちらもメダルの獲得数として過去最多を更新する活躍をみせ、さらに日本史上最年少13歳の金メダリストが誕生するなど、若い世代の活躍も目立ちました。パラリンピックでは、日本選手団は金メダル13個を含む51個のメダルを獲得、総メダル数では、アテネ大会に次ぐ過去2番目の多さとなり、また、本市出身や本市在住の選手が出場し活躍するなど、市としても大いに盛り上がる大会となりました。スポーツを通じて、多くの元気をもらい、沸き立つような感動に包まれたことは、まだ記憶に新しいかと思えます。



新年のごあいさつ

ウイズコロナ時代の議会運営

鴻巣市議会議長 大塚 佳之

症については、昨年感染拡大防止対策に追われる1年となりましたが、ワクチン接種率の向上等に伴い、市内における新規感染者数も減少し、27都道府県に発出されていた緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が去る9月30日までをもって全て解除され、徐々にではあります。日常生活が戻りつつあるのではないかと思います。しかし、今後も第6波の到来が懸念されるなど、未だ収束にはいたっておらず、依然として感染拡大防止対策に取り組まなければなりません。

このようなウイズコロナ時代において、政府や自治体のDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進が重要視され、デジタル技術による地域の活性化や住民サービスの向上、業務効率化への期待が高まっています。市議会においても、議会改革の一環として、昨年3月定例会より、タブレット端末を導入し、ペーパーレス化や情報発信精度の向上を推進していますが、今後は災害時等に備え、オンライン会議の開催等につきましても検討してまいります。

また、昨年からTwitter

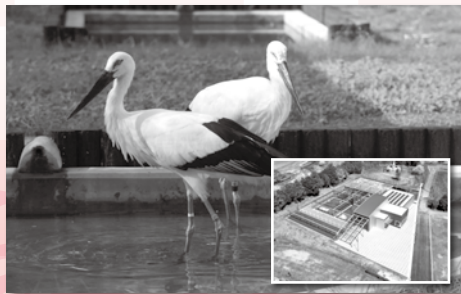
やLINEなど、SNS(ソーシャル・ネットワーキングサービス)を利用して、市議会で年4回発行している「議会だより」や議会情報の発信を始めましたので、より多くの方が市政に関心をもっていただければと思います。

さて、元号が「平成」から「令和」へ改元されました令和元年5月から、現在の第18期の市議会はスタートし、今年で4年目を迎えます。市議会は、市民の皆様から様々なご意見を拝聴し、市政でできる限り反映させていく使命があり、地方自治体の意思決定機関として、大変大きな責任を担っています。私たち議員は、皆様の負託に応えられる議会として、住民福祉の向上に誠心誠意努力してまいりますので、皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたりまして、市民の皆様にとつてご健康で幸多き年でありますよう心からご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。



市役所敷地内に防災備蓄センターが完成 (11月)



2羽のコウノトリが鴻巣市に (10月)



東京2020オリンピック聖火リレーが中山道を通 (7月)